

し如何にしてそれが生じ来るかに就いては、吾々に説明するのを忘れてゐる。支配者の壓制は、自ら消滅するものでもなく、又主権者のお情けに依つてなくなるものでもない。群衆煽動的な獨裁政治に依つて有利な地位にある人々が、その利得を容易く棄てるであらうと思ふのは、餘りに單純な考へでなくてはならない。」と。(Refluxions sur la violence, Troisième édition, p. 253.)

プロレタリアの獨裁政治といふも、實は少数者の獨裁政治となつて表はれることは免れない。カウツキーも、「獨裁政治の必要は、民衆のうちの少数者が國家の権力を獲得することは免れない。カウツキーも、『プロレタリアの獨裁政治』(英譯、九二頁。)と言つてゐる。勿論吾々はカウツキーと同じ意味に於て、プロレタリアの獨裁政治に反對するのではないが、兎に角吾々はプロレタリアの獨裁政治といふが如きことを目標として進む必要を少しも認めないのである。煽動家や野心家の乗するやうな機會を興へてはならない。政治家的傾向を有する人々を飽く迄も警戒しなくてはならない。民衆の解放は、民衆自身の力に依つてなされしめよ。それより外に眞の解放はない。

ソレルは言つてゐる。「勝利を更に追求するには當らない。その勝利を利用することを企てる必要はない。要するに資本家を生産界から放逐し、そして資本主義に依つて造り出された工場の中に自らの地位を再び占めればそれでよいのである。」と。(Refluxions sur la violence, p. 249.) 何も

プロレタリアの獨裁政治をいふ必要はないのである。打ち負かしたるものをその上支配することはない。唯單純に打ち負かすことさへ出来ればそれでよいのである。それは極く單純な實力の發動に依つてきまることである。政治的色彩を帯びる必要はない。經濟上のごとは飽く迄も經濟上で行かなくてはならない。ソレルも言つてゐるやうに嫉妬羨望によつて引き起される復讐心からは離れなくてはならない。獨裁政治の主張は復讐心の表はれであるとも一面からは見られる。政治的革命は却つて殘虐が伴ふ。政權の掠奪は人間の野心をそよる。プロレタリアの力の表はれは、もつと單純なものでなくてはならない。野心家に利用されるのでなく、自らを自らの力に依つて解放するのでなくてはならない。

近頃またしても一種の英雄主義が、ロシアの革命に刺戟せられて唱へ出されてゐるやうであるが、これは警戒しなくてはならない。今日の民衆は英雄を必要とはしない。英雄の爲めに犠牲になることを、心よしとするやうな民衆ではない。ナポレオンの出現を望んでゐる者は、恐らく今日の目覺めたる民衆のうちにはないであらう。今日の民衆は一英雄の野心の爲めに動かされはしない。彼等は自らの解放を望んでゐるのである。如何に善政の名をもつてなされるにしても、少数者の支配のもとに甘んじてゐるやうな者は、自らの解放を望んでゐる民衆のうちにはない筈である。實に「Rank and file (卒伍)の間から起つて来る運動こそ、本當の民衆解放運動である。其處まで民衆が目覺めて行かなか